



<報道関係者各位>

2019年3月7日
DataRobot, Inc.

DataRobot、「Arm Treasure Data eCDP」と連携し、 Arm との技術・販売活動における協業を開始 ～クラウドに蓄積されたデータから、AI が即時学習～

機械学習の自動化をリードする DataRobot, Inc.（本社：マサチューセッツ州ボストン、CEO：Jeremy Achin、以下 DataRobot）は、この度、英 Arm（本社：英国ケンブリッジ、以下 Arm）が提供するカスタマーデータプラットフォームとデータコネクタの実装による連携を実現し、今後両社はテクノロジーパートナーとして、継続的な技術・販売活動における連携を行っていくことを発表いたします。これにより、クラウド上に蓄積されたデータから、自動的に AI が学習していくワークフローを実現します。

Arm が提供するクラウド型カスタマーデータプラットフォーム『Arm Treasure Data eCDP』は、既に国内外の様々な業界のリーディング企業が利用しており、マーケティングから IoT まで多様なデータを集積しています。一方、多くの企業は、集積したデータの利用に課題を抱えており、特に機械学習・AI へのデータ活用には、幅広い技術の組み合わせによるワークフローの構築が必要となります。今回の連携によって、『DataRobot』から直接『Arm Treasure Data eCDP』上のデータを利用した高度な予測や検知を行う AI の構築を自動化することでワークフローの整備を行います。

本連携によって、解決できる具体的な事例は以下です。

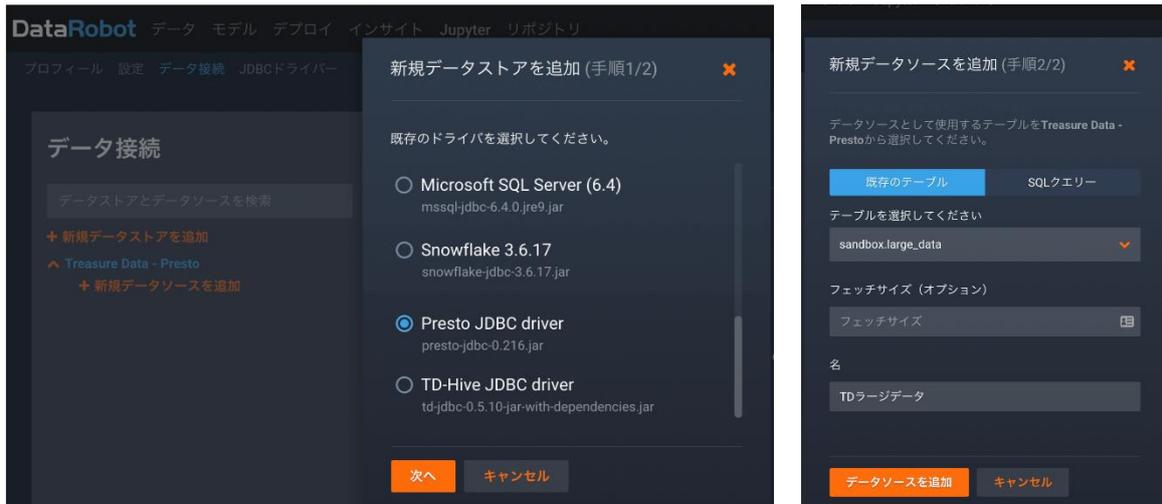
- 様々な顧客接点から収集された顧客活動データに基づく最適な顧客体験の提供
- 店舗、商品、CRM データを結合し、最適な商品配置と在庫管理を行う
- 複数のセンサーデータを統合し、製造品質の予測と要因分析に役立てる

上記以外にも解決できる課題の種類は限りなく広範囲に及びますが、これらの AI ソリューションは蓄積されたデータの価値を高め、複雑なビジネスプロセスの自動化に貢献します。今後、企業が進めるデジタルトランスメーションにおいても中核的な役割を担っていきます。

■ 『DataRobot』における『Arm Treasure Data eCDP』データコネクタの利用方法

『DataRobot』と『Arm Treasure Data eCDP』の連携ステップは非常に簡単です。DataRobot のデータソース設定から Presto JDBC もしくは TD-Hive JDBC driver を選択し、『Arm Treasure Data eCDP』接続情報を入力すれば、既存データセットのテーブルを『DataRobot』側に登録し、利用することが可能となります。モデル作成時は、登録されたデータセットを選択し、予測対象となる項目を設定するだけで、AI による学習を自動的に行うことができます。

① データソースの登録



新規データストアを追加 (手順1/2)

既存のドライバを選択してください。

- Microsoft SQL Server (6.4)
mssql-jdbc-6.4.0.jre9.jar
- Snowflake 3.6.17
snowflake-jdbc-3.6.17.jar
- Presto JDBC driver
presto-jdbc-0.216.jar
- TD-Hive JDBC driver
td-jdbc-0.5.10-jar-with-dependencies.jar

次へ **キャンセル**

新規データソースを追加 (手順2/2)

データソースとして使用するテーブルをTreasure Data - Prestoから選択してください。

既存のテーブル **SQLクエリ**

テーブルを選択してください

sandbox.large_data

フェッチサイズ (オプション)

フェッチサイズ

名

TDラージデータ

データソースを追加 **キャンセル**

② データの読み込み



データベースからプロジェクトを作成

既存のデータソースを選択するか、**データソースを新規作成**してください。
このプロジェクトに使用するデータのコピーが作成されます。

データソースを検索

TDラージデータ
Treasure Data - Presto

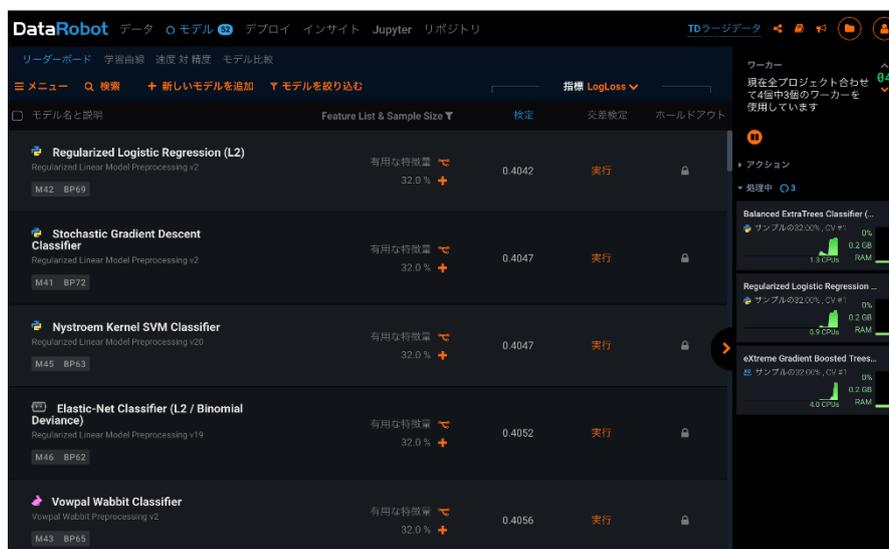
次へ **キャンセル**

ワーカー
現在全プロジェクト合わせて4個中0個のワーカーを使用しています

ステータス

1. データをアップロード中
2. 元データを読み取り中 (クイック) (11%)
3. 探索的データ解析

③ モデリング



DataRobot データ モデル デプロイ インサイト Jupyter リポジトリ

リーダーボード 学習曲線 速度 対 精度 モデル比較

メニュー 検索 新しいモデルを追加 モデルを絞り込む 指標 LogLoss

モデル名と説明	Feature List & Sample Size	検証	交差検定	ホールドアウト
Regularized Logistic Regression (L2) Regularized Linear Model Preprocessing v2 M42 BP69	有用な特徴量 32.0 %	0.4042	実行	🔒
Stochastic Gradient Descent Classifier Regularized Linear Model Preprocessing v2 M41 BP72	有用な特徴量 32.0 %	0.4047	実行	🔒
Nystroem Kernel SVM Classifier Regularized Linear Model Preprocessing v20 M45 BP63	有用な特徴量 32.0 %	0.4047	実行	🔒
Elastic-Net Classifier (L2 / Binomial Deviance) Regularized Linear Model Preprocessing v19 M46 BP62	有用な特徴量 32.0 %	0.4052	実行	🔒
Vowpal Wabbit Classifier Vowpal Wabbit Preprocessing v2 M43 BP65	有用な特徴量 32.0 %	0.4056	実行	🔒

ワーカー
現在全プロジェクト合わせて4個中3個のワーカーを使用しています

アクション

処理中 0/3

Balanced ExtraTrees Classifier (...)
サンプルの92.00% (CV #1)
0% CPU 0.2 GB RAM

Regularized Logistic Regression (...)
サンプルの92.00% (CV #1)
0% CPU 0.2 GB RAM

xXtreme Gradient Boosted Trees (...)
サンプルの92.00% (CV #1)
0% CPU 4.0 GB RAM



DataRobot

DataRobot の事業開発担当シニア・バイスプレジデント、ショーン・ガーディナー（Seann Gardiner）は次のように述べています。

「今回、クラウド型データプラットフォーム業界のリーダー的存在である Arm Treasure Data と協業できることを非常にうれしく思います。DataRobot は、世界有数のデータ・サイエンティストが開発し、優れた自動化、精度、透明性、そして高度な機械学習モデルとのコラボレーションを提供しています。本連携によって、より多くの企業が高度な予測や検知を行う機械学習・AI の構築において、自動化の恩恵を享受できるようになりました。今後、企業がデジタルトランスフォーメーションするうえで、さらなる貢献ができると確信しています。」

■ 『DataRobot』 と 『Arm Treasure Data eCDP』 の連携への期待

企業のマーケティング活動を支援する株式会社インテージ（以下、インテージ）の開発本部 先端技術部 部長 山本 直人氏は次のように述べています。

「現在、高度化する技術の組み合わせによるワークフローの構築は課題であり、この度のパートナーシップを非常に嬉しく思っています。この度のパートナーシップにより、DataRobot から直接 Arm Treasure Data eCDP 上のデータを利用し、高度な予測や検知を行う AI の構築が自動化されるということで、非常に楽しみです。今後も連携を強化し、保有する情報やシステムに関する専門性を背景に、お客様と生活者をつなぐ架け橋として、豊かで可能性の広がる社会の創造をめざしていきます。」

■ 「DataRobot, Inc.」について（製品詳細 URL：<https://www.datarobot.com/jp/>）

DataRobot はあらゆるレベルのユーザーが機械学習・AI を迅速に活用、ビジネスへ展開するためのエンタープライズ向け機械学習自動化プラットフォームを提供しています。数百種類におよぶパワフルなオープンソースの機械学習アルゴリズムから成るライブラリを組み込んだ DataRobot のプラットフォームは、予測モデルのトレーニングと評価のプロセスを自動化し、またそれらを同時並行に行うことで、大規模な AI 処理を可能にします。DataRobot はあらゆる規模の組織や企業が、最速で AI の導入と活用を成功できるようにサポートいたします。

日本では、すでに明治安田生命保険相互会社、トランスコスモス株式会社、パナソニック株式会社、三井住友カード株式会社、株式会社リクルートホールディングスなどを含む幅広い企業で導入され、成果をあげています。

■ 「Arm Treasure Data eCDP」について

Arm Treasure Data eCDP（エンタープライズ・カスタマーデータプラットフォーム）は、オンライン広告配信やマーケティング、CRM（顧客管理システム）などの領域において、顧客一人ひとりのデジタル上の行動ログデータや属性データなどのカスタマーデータを統合することで、パーソナライズを軸とした顧客ロイヤリティの向上やデジタルによるビジネス変革を可能とするプラットフォームです。

商標関連

- ・「DataRobot」は DataRobot, Inc. の登録商標です。
- ・その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。
- ・Arm は Arm Limited（またはその子会社）の登録商標です。その他のブランドあるいは製品名は全て、それぞれのホルダーの所有物です。© 1995-2019 Arm Group.

報道関係者のお問い合わせ先

DataRobot Japan PR 事務局（MSL in Japan 内） 浅野、小野

Email：datarobot_pr@msljapan.com